

GID(性同一性障害)と保険を考える(上)

心と体の性の不一致に苦悩

最近、「性的マイノリティー」という言葉が、テレビや新聞など多くのマスコミで聞かれるようになった。中でも、生まれた時の身体性と心の性の不一致で強い悩みを抱えるGID(性同一性障害/Gender Identity Disorder)は、マイノリティーの中のマイノリティーとして社会的認知度もまだ低い。多くの場合、精神療法やホルモン治療が続けられるが、中には最終的に性適合手術、いわゆる性転換手術に進むケースも少数ある。今回の記者の視点では、社会的な差別や偏見を受けがちな性同一性障害への理解、さらにはGIDのための保険相談窓口を開設した福岡市のミニオンを上下2回シリーズで取り上げる。

「LGBTフレンドリー」められている。このLGBT(図1)とは、性的マイノリティーを表す言葉だが、「LGB」と「T(トランスジェンダー)」では、その状態はまったく異なる。前者は「性嗜好」、つまり女性(男性)が各々の性を好きになる同性愛や、どちらの性も好きになる両性愛を示すことに対し、後者はトランスジェンダーは身体性と心の性が一致せず、性別に違和感を持つという概念になる。GID(性同一性障害)は、このトランスジェンダーに含まれると解されるが、特に性同一性障害は、身体性と心の

記者の視点から

最近、「性的マイノリティー」という言葉が、テレビや新聞など多くのマスコミで聞かれるようになった。中でも、生まれた時の身体性と心の性の不一致で強い悩みを抱えるGID(性同一性障害/Gender Identity Disorder)は、マイノリティーの中のマイノリティーとして社会的認知度もまだ低い。多くの場合、精神療法やホルモン治療が続けられるが、中には最終的に性適合手術、いわゆる性転換手術に進むケースも少数ある。今回の記者の視点では、社会的な差別や偏見を受けがちな性同一性障害への理解、さらにはGIDのための保険相談窓口を開設した福岡市のミニオンを上下2回シリーズで取り上げる。



日本性同一性障害と共に生きる人々の会 代表・西野氏

(図1)LGBTとは

性嗜好	L (レズビアン) G (ゲイ) B (バイセクシャル)
性別違和 (心と体の性が不一致)	T (トランスジェンダー) この中の一部にGIDも含まれると解されている。

(図2)GIDの主な治療法のイメージ

- ①【精神療法】(健康保険適用)
精神科医等が精神的サポート、カミングアウトの検討、実生活経験の検討を行い、希望する性別での生活の実現に向けた準備と環境づくりを行う。
- ②【ホルモン療法】(健康保険適用外)
継続的なホルモン投与による治療。FTMの場合、医療機関での筋肉注射による。一方、MTFの場合も注射という選択肢はあるが、錠剤を摂取するケースも多く、ネットで入手する当事者もいるという。
- ③【乳房切除術】(健康保険適用外)
FTMに対する選択肢の一つ。
- ④【性別適合手術】(健康保険適用の動き)
精神科医の意見書を基に、形成外科医、泌尿器科医、産婦人科医など、多くの専門家による医療チームが関わり、概ね、FTMでは卵巣摘出術、子宮摘出術、尿道延長術、膣閉鎖術、陰茎形成術を、MTFでは精巣摘出術、陰茎切除術、造陰術、外陰部形成術が行われる。

保険加入、門前払いのケースも

致せず、性別に違和感を持つという概念になる。GID(性同一性障害)は、このトランスジェンダーに含まれると解されるが、特に性同一性障害は、身体性と心の

性の不一致に対する強い心理的苦悩によって日常生活や日常生活に重大な支障が生じる状態にあるという。その傾向は一般的に第二次成長期から強くなりがちで、自らの体か意思とは反対に女性(男性)らしい体に変化していくことに耐えられず、自分の性別を嫌悪したり忌避し、「今のままでは生きていけない」「この体さえなければ」と思い込むようになる。実際に、性同一性障害の当事者ほどの程度いるのか。各種調査数では、らつきや、定義の変遷などもあり、正確な数字はよく分からないというのが実状だ。また、どこまでが性同一性障害なのか明確に判断しにくいこと

る。そうした強い心理的苦悩から解放されたいとの思いから、外科的手術(性別適合手術)により性別移行を選択する当事者もいる。

体を中心の性に近付けるGID治療(図2)

かつて、性同一性障害の治療では心の性を体の性に合わせようと試みた(注1)すれば、周囲からの誹謗中傷、偏見にさらされたり、企業などでの差別的待遇を受ける可能性も極めて高い。

- (注1) カミングアウト：一般的に性同一性障害であることを家族や学校、企業など周囲に表明すること。
 (注2) MTF: (Male To Female)、FTM: (Female To Male) 略
 (注3) 特例法による戸籍の性別変更の要件：
 ①20歳以上②現に婚姻していない③現に未成年の子がいない④生殖腺がないこと、または生殖腺の機能を永続的に欠く状態にあること⑤その身体について他の性別に係る身体の性器に係る部分に近似する外観を備えていることが条件となり、性同一性障害者の請求に基づき家庭裁判所が審判する。日本性同一性障害と共に生きる人々の会の調査によれば、これまで累計で約6,900人が同法に基づいて性別変更を行っている。

性適合手術に至る例は少数

が、それぞれの治療内容については、同ガイドラインで定められている。たとえば「精神科領域の治療」では、心理関係の専門家を中心として精神的サポートと実生活経験のヒアリングなどを行う。性同一性障害の診断に当たっては、基本2人の精神科医の診断で確定する。さらに、「身体的治療」では、希望する性のホルモンによる治療を継続して行う「ホルモン

性適合手術に至る例は少数。性適合手術は、わが国の場合、手術が行える医療機関も限定され、専門医の数も極めて少ない。そうしたことから、外国での手術を行う当事者もいる。ネットで検索すると、タイなどでは200万円を超える性転換パックスターを用意している医療機関もある。一方、体本来の性を別れる乳房切除術も、一般

性同一性障害に関する診断と治療のガイドラインでは、わが国の場合、「精神科領域の治療」で構成される。「身体的治療」で構成される。性同一性障害には、FTM(女性から男性へ)とMTF(男性から女性へ)(注2)が一般的に性同一性障害であることを家族や学校、企業など周囲に表明すること。

引受け、支払いの照会
 査定基準、意見書なら
内山アンダーライティング(株)
<http://www.uchiyamaunderwriting.com>
 TEL:050-5533-7555
 E-mail: info01@uchiyamaunderwriting.com

わが国の性別適合手術に関して、厚労省の中央社会保険医療協議会では健康保険適用に向けた審議が進んでいる。一方、この手術を希望するのは少数派だけに、多くの当事者が関わるホルモン治療のほうを先に健保適用すべきという声も挙がっている。

また、2004年、「性同一性障害の性別の取扱いの特例に関する法律(特例法)」の施行により、性同一性障害者は一定の条件の下に戸籍の性別の変更が可能となった(注3)。しかし、戸籍を変更したいがために性適合手術を安易に受けてしまうケースもあり、健康保険適用になれ

【参考資料】性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第4版)、中央社会保険医療協議会総会(第374回)個別事項(性別適合手術)、(1809)、日本性同一性障害と共に生きる人々の会パンフレット

性的マイノリティーへの対応を進める保険業界。性同一性障害のリスクを正しく把握し、加入しやすい商品の提供や、当事者の精神的苦悩に配慮した相談体制の構築も望まれる。今回は、GIDのための保険相談窓口開設の話題を取り上げる。(記者/森隆)